

生駒市長 小紫 雅史 様

生駒市環境マネジメントシステム推進会議
会 長 楠下 孝雄

環境監査報告書

当会議は、平成 28 年度における貴市の環境マネジメントシステムに基づく取組に関して、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 総合所見

1-1 全般的事項

今回は、独自のシステムを導入してから 2 回目の監査で、初年度でのシステム運営上の改善点を反映しての実施でした。全般的に、本来業務の中に環境に関するテーマを取り入れている部署が多くなってきており、環境行動が更に浸透してきたと感じます。

幼稚園・小中学校などの教育関係の所属では、横の連携が進んでいることに加え、地域に出て行く活動が増えており、地域連携が定着しています。庁内においてもエコオフィスの取組は既に浸透し、成果が出ていますので、今後は庁内だけでなく、生駒市全域に、どう計画的な取組を広げてゆくかを検討し、推進されるよう期待いたします。

1-2 個別的事項

(1) 指標【帳票 1】

・市域における数値目標

目標達成率がマイナスになっている事業系ごみ削減率については、事業所数の増加が要因の 1 つであれば、排出量を事業所数や事業所の床面積等で除した数値で比較するなど、より細やかなデータ把握が必要です。増加量が許容範囲かどうか確認した上で、適切な進捗管理をおこなってください。

・公共施設における数値目標

11 項目のうち、×と△が 3 つずつとなっており、全体的に 28 年度の取組状況には足踏みがみられます。オール電化施設である南こども園の開園、生駒山麓公園浴場の設備拡充等、年度特有の変動要因もあるようなので、環境施策を包括的に所管している環境モデル都市推進課が、事前の設計や計画の検討段階で他所属の情報を入手し推進できるように努めてもらいたいです。

昨年から引き続きの課題となっている紙類使用量については、コピー機の性能向上による印刷内製化や、市の方針としてイベントの増加等が影響しているようです。新規事業が増えれば情報発信が必要となるのは当然であり、施策 PR は重要です。そのような状況の中で、増加した量が許容範囲なのかどうかを確認できる工夫ができればいいと思います。

(2)計画に基づく施策【帳票2】

全68の取組のうち、「計画に追加／計画を前倒し／計画を深掘りして実施」が11個、「ほぼ計画通り」が49個、「計画より遅れている」が8個となっており、ほとんどの取組が計画通り実施できていることは評価できます。

(3)エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況【帳票3】【帳票3別紙】

今回から仮評価の段階で、取組項目設定数を用いた定量的な評価基準を設けたことで、多くの所属が、事務局が指定する数の倍以上の目標を設定し、意欲的に取り組んでいることが分かりました。

また、添付1の集計結果からも分かるように、エコオフィスの取組に加え、本来業務における環境配慮、独自施策の取組を実施している所属が大幅に増加したことは評価できます。実施していない率が比較的高くなっている「環境モデル都市推進課の所有する電気自動車の活用」については、実施できていない所属が多い理由を確認するとともに、改善できるよう工夫が必要です。

昨年度は、幼稚園、小学校、中学校の取組がほとんどであった優良事例にも、会議におけるペーパーレスの取組など、庁内各課の取組が選ばれており、独自の工夫が見受けられます。全庁的に水平展開ができそうな取組は、他所属への広がり期待しています。

1-3 各部署の監査への対応について

今回の監査では、昨年より10分拡大した30分の時間の中で、それぞれが取り組む具体的な事例について詳細にお話しいただきました。特に、本来業務における取組については従来よりも意識レベルが向上しており、環境モデル都市に選定された市の職員として真剣に取り組む姿勢を評価し、また感謝の意を表します。

昨年に比べ、ヒアリング対象所属は増えたものの、書面監査のみとなる所属の実態把握は難しいため、引き続き日常的な啓発の実施をお願いしたいと思います。

2. 実施概要

2-1 実施方法及び監査対象

主として次の3帳票をもとに、それぞれ対象となる所属に対して監査を実施しました。

帳票種別	監査対象とする項目	監査対象所属
【帳票1】指標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画、エネルギービジョン、環境モデル都市アクションプラン¹で掲げている数値目標の達成状況 ・公共施設における数値目標の達成状況 	環境モデル都市推進課
【帳票2】個別事業に関する進捗状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画、エネルギービジョン、環境モデル都市アクションプランに定めている施策の取組状況 	各計画の個別事業担当所属 19ヶ所 広報広聴課、総務課、防災安全課、市民活動推進課、環境モデル都市推進課、経済振興課、環境保全課、健康課、管理課、都市計画課・学研推進室、建築課、みどり公園課、下水道課、竜田川浄化センター、上下水道部総務課、浄水場、教育総務課、教育指導課、生涯学習課
【帳票3】エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況 【帳票3（別紙）】上記の実施状況 記入シート	<ul style="list-style-type: none"> ・エコオフィスの取組（全職員に共通した取組）、本来業務における環境配慮、独自施策（各部署の取組）の取組・実施状況 	10部1室の各所属、学校、幼稚園、保育園、施設（指定管理施設を含む）全126ヶ所

¹環境モデル都市アクションプランのフォローアップ指標については、特に専門的な知見を要するため、有識者や関連企業・団体で構成する「環境モデル都市推進協議会」で確認を行います。

（参考）環境モデル都市推進協議会平成28年度開催状況及び会議録のページ

<http://www.city.ikoma.lg.jp/0000008131.html>

2-2 実施内容

(1) 指標【帳票 1】

・書面監査（平成 29 年 8 月 8 日）

環境モデル都市推進課から提出された帳票を、専門チーム会議にて確認しました。

市域における数値目標については、目標に対して進捗が遅れている項目を中心に要因の確認を行い、公共施設における数値目標については、3-1 のとおり、評価を決定しました。

(2) 個別事業に関する進捗状況等【帳票 2】、エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況【帳票 3】、エコオフィス、本来業務における環境配慮項目の実施状況【帳票 3 別紙】

・書面監査（平成 29 年 5 月 26 日～6 月 9 日）

提出された全所属の帳票について、班ごとに担当分を確認し、各所属フィードバック用のコメントとして「評価できる点」「改善を要する点」を記入しました。

・ヒアリング監査

①ヒアリング先の選定（平成 29 年 6 月 23 日）

監査対象 126 ヶ所から提出された帳票を用いて、以下の観点等から昨年から倍増以上であるヒアリング先 34 ヶ所を選定しました。

【選定の観点】

- ・取組が不十分だと思われる所属
- ・優れた取組を実施しており、他所属の参考になるとと思われる所属

【ヒアリング選定先一覧】

1 班	2 班	3 班	4 班	5 班
防災安全課	政策企画推進課	広報広聴課	人事課	総務課
市民活動推進課	市民課	課税課	男女共同参画プラザ	人権施策課
病院事業推進課	環境保全課	デイサービスセンター ター幸楽	高齢施策課	みどり公園課
教育総務課	教育支援施設	都市計画課・学研 推進室	建築課	浄水場
鹿ノ台小学校 中保育園	生駒南第二小学校 教育指導課	生駒北小中学校 学校給食センター	あすか野幼稚園 なばた幼稚園	桜ヶ丘小学校 壱分幼稚園
南こども園	子育て支援総合セ ンター/こどもサ ポートセンター	生涯学習課		ふるさとミュージ アム

※上記の 34 所属以外に、環境施策を包括的に所管している環境モデル都市推進課については、毎年度監査を実施することとしています。

②ヒアリングの実施（平成 29 年 7 月 26 日及び 31 日）

提出された帳票をもとに、2～4 名の監査員が 30 分程度でヒアリング及び現場の確認を実施しました。

班分け	ヒアリング先	担当委員
1 班	防災安全課、市民活動推進課、病院事業推進課、教育総務課、鹿ノ台小学校、中保育園、南こども園	奥田委員、楠下委員、辻垣委員、宮地委員
2 班	政策企画推進課、市民課、環境保全課、教育支援施設、生駒南第二小学校、教育指導課、子育て支援総合センター/こどもサポートセンター	小宮山委員、寒川委員、藤村委員、安井委員
3 班	広報広聴課、課税課、デイサービスセンター幸楽、都市計画課・学研推進室、生駒北小中学校、学校給食センター、生涯学習課	楠委員、新海委員、杉山委員
4 班	人事課、環境モデル都市推進課、男女共同参画プラザ、高齢施策課、建築課、あすか野幼稚園、なばた幼稚園	青木委員、中畑委員、矢田委員
5 班	総務課、人権施策課、みどり公園課、浄水場、桜ヶ丘小学校、壱分幼稚園、ふるさとミュージアム	桜井委員、寺内委員、宮崎委員

3. 結果

3-1 指標【帳票1】数値目標達成状況

・市域における数値目標

項目	基準年度	目標年度	目標数値	基準年度実績値	2016年度実績値	目標達成状況 (達成率)	備考	
温室効果ガス排出量 削減率 (単位:万t-CO ₂)	2006 (平成18)年度	2018 (平成30)年度	-14% =28.0	32.5	31.4 ※	24.4%		
		2030 (平成42)年度	-35% =21.1					
		2050 (平成62)年度	-70% =9.8					
エネルギー消費量 削減率 (単位:TJ)	2006 (平成18)年度	2018 (平成30)年度	-5% =7012.5	7381.6	7116.7 ※	71.8%		
		2030 (平成42)年度	-20% =5905.3					
再生可能エネルギーの普及 (単位:基)	2011 (平成23)年度	2018 (平成30)年度	普及率16.5% =4,650	1,350	3,020	50.6%	再生可能エネルギーの普及は、市域の太陽光発電の設置基数を用いて進捗管理をしている。年度ごとの増加基数を比較すると、平成21年度以降220～400基程度の増加となっていたが、平成24年度をピークに低下傾向にあり、主な原因は固定価格買取制度の単価引下げにあると考えられる。普及のため周知を徹底していかねばならない。	
		2030 (平成42)年度	普及率30% =8,454					
太陽光発電によるエネルギー自給率 (単位:kW)	—	2030 (平成42)年度	15% =46,700	—	17,600	37.7%	エネルギー自給率は、市域の太陽光発電設置容量を用いて進捗管理をしている。	
ごみ排出量	家庭系ごみ 削減率(1人1日当たり) (単位:g/人日)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	-15% =570.0	673.2	544.6	124.6%	家庭ごみ有料化の開始により、可燃ごみの削減は一定の成果が得られているが、「ごみ半減プラン」の目標達成には更なる取組が必要。事業系ごみの増加は、市内事業者の増によると思われる(市内事業所の総床面積あたりの排出量は変わらない)。
	再資源化率 (単位:%)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	30	16.8	23.5	50.8%	
	事業系ごみ 削減率(年間排出量) (単位:t)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	6,721	9,128	9,167	-1.6%	
公共交通	鉄道利用者数 増加率 (単位:千人)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	現状維持～+0.5% =19,306	19,210	18,826	-400.0%	
	路線バス利用者数 増加率 (単位:千人)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	+10% =5,586	5,078	5,141	12.4%	
	代替交通の新規路線 (単位:本)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	コミュニティバスなどの代替交通の新規路線を複数ルート実現	1	6	○	6ルートの内訳 ・光陽台線 ・門前線 ・西畑線 ・有里線 ・北新町線 ・萩の台線
竜田川の水質 (単位:mg/L)	2007 (平成19)年度	2018 (平成30)年度	観測地点ごとの年間平均でBOD(生物化学的酸素要求量)5mg/L以下	阪奈道路下		3地点で○		
				16	6.5			
				東生駒川合流前				
				10	4.1			
				大宮橋下				
				9.8	4.8			
市境								
8.0	3.9							
環境活動 参加人数(計画開始年度からの累計) (単位:人)	2009(平成21)年度以降の累計	2018 (平成30)年度	117,000	—	97,727	83.5%		

※温室効果ガス排出量と、エネルギー消費量については、2014年度の実績です。

・市域における数値目標（目標数値の考え方と算出方法）

項目	考え方と算出方法
温室効果ガス排出量 削減率	環境基本計画において、2006（平成 18）年度比で、2018（平成 30）年度までに 14%削減するという目標を立てています。目標年度の 2030（平成 42）年度、2050（平成 62）年度の 2 つは、環境モデル都市アクションプランに掲げる目標です。中期目標として、2006（平成 18）年度比で、2030（平成 42）年度までに 35%削減、長期目標として、2006（平成 18）年度比で、2050（平成 62）年度までに 70%削減するという目標を掲げており、参考に記載しています。
エネルギー消費量 削減率	エネルギービジョンにおいて、2006（平成 18）年度比で、2018（平成 30）年度に 5%、2030（平成 42）年度に 20%削減するという目標を立てています。
再生可能エネルギーの普及	エネルギービジョンにおいて、2011（平成 23）年度比で 2018（平成 30）年度に普及率 16.5%、2030（平成 42）年度に普及率 30%という導入目標を立てています。普及率は、太陽光発電の設置基数を一戸建て件数で除したものとなります。一户建て件数は、28,180 件（総務省平成 20 年住宅・土地統計調査）としています。
太陽光発電によるエネルギー自給率	<p>エネルギービジョンにおいて、2030（平成 42）年度の電力需要見込みに対する太陽光発電による自給率を 15%とするという目標を立てています。目標数値は下記の方法により算出しています。</p> <p>①2030（平成 42）年の電力需要見込み 2012（平成 24）年度市域の電力使用量の 80%の数値とする。 $413,117,311 \text{ kWh/年} \times 80\% \div 330,493,849 \text{ kWh/年}$</p> <p>②目標自給率 15%</p> <p>③太陽光発電設置容量 1kW あたりの年間発電量 1,063 kWh とする。</p> <p>①×②÷③ = $46,636.00879 \dots \div 46,700 \text{ kW}$</p>
ごみ排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭系ごみ排出量 2007（平成 19）年度比で、1 人 1 日あたり排出量を 2018（平成 30）年度までに 15%削減するという目標を立てています。 ・再資源化率 2007（平成 19）年度比で、再資源化率を 2018（平成 30）年度までに 30%にするという目標を立てています。 ・事業系ごみ排出量 2007（平成 19）年度比で、年間排出量を 2018（平成 30）年度までに 6,721 t に削減するという目標を立てています。
公共交通	<p>環境基本計画において、2007（平成 19）年度を基準とし、2018（平成 30）年度を目標年とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道利用者数 現状維持から 0.5%増に。 ・路線バス利用者数 10%増に（生駒駅・東生駒駅発着路線のみ）。 ・コミュニティバスなどの代替交通の新規路線を複数ルート実現 といった目標を立てています。
竜田川の水質	竜田川の水質を、4 つの観測地点ごとの年間平均で BOD（生物的酸素要求量）5mg/L 以下になる目標を立てています。
環境活動 参加人数 （計画開始年度からの累計）	2009（平成 21）年度からの累計が、2018（平成 30）年度を目標年度で、2007（平成 19）年 10 月現在の生駒市の総人口 11.7 万人になることを目指しています。

・ 公共施設における数値目標

目的	項目	平成28年度目標	平成28年度目標値		平成28年度実績値			目標達成率	評価	備考
			削減目標	削減実数	削減実数					
					削減実数	削減率				
地球温暖化の防止	二酸化炭素排出量の削減	市の事務・事業から排出される二酸化炭素排出量の総量を2010(平成22)年度比で18.6%以上削減する。(1,396t-CO ₂ 相当)	-18.6%	1,396t-CO ₂	-13.6%	1,021t-CO ₂	1,021	73.1%	△	・新施設の開設によるエネルギー使用量の増、設備の劣化・性能不良等が大きく影響した。
	電気	電気使用量を2010(平成22)年度比で18.8%以上削減する。(2,834kWh相当)	-18.8%	2,834kWh	-13.1%	1,978kWh	702	69.8%	△	・南こども園の開園。 ・生涯学習施設等での空調設備の性能不良、開館日の増。 ・高温の日が多く、空調設備の稼働増。
	ガソリン	ガソリン使用量を2010(平成22)年度比で16.0%以上削減する。(12,421ℓ相当)	-16.0%	12,421 ℓ	-26.5%	20,535 ℓ	48	165.3%	◎	古くなった公用車の入替の際、環境に配慮した入替を行っている(ハイブリッド車、軽自動車、電気自動車)
	軽油	軽油使用量を2010(平成22)年度比で60.0%以上削減する。(37,576ℓ相当)	-60.0%	37,576 ℓ	-69.0%	43,191 ℓ	112	114.9%	◎	特に大きな変動はなかった
	都市ガス	都市ガス使用量を2010(平成22)年度比で21.0%以上削減する。(52,181kg相当)	-21.0%	52,181kg	-5.2%	13,001kg	42	24.9%	×	・生涯学習施設の空調設備が劣化し性能不良。 ・高温の日が多く、空調設備の稼働増。
	重油	重油使用量を2010(平成22)年度比で10.0%以上削減する。(29,640ℓ)	-10.0%	29,640 ℓ	-21.9%	62,650 ℓ	170	211.4%	◎	特に大きな変動はなかった
	灯油	灯油使用量を2010(平成22)年度比で25.6%以上削減する。(7,724ℓ)	-25.6%	7,724 ℓ	-20.0%	6,028 ℓ	15	78.0%	△	一部施設で使用量増となったが、その他の施設では大きな変動はなかった
	LPG	LPG使用量を2010(平成22)年度比で増加させない。 ※2010(平成22)年度実績:52t	—	—	43.1%	▲22.357 t	▲67	143.0%	×	山麓公園浴場の設備拡充による使用量の増加。
循環型社会の構築	紙類使用量	OA用紙の使用量を2015(平成27)年度比で1.8%以上削減する。(2014(平成26)年度比で増加させない)(1,098kg相当)	-1.8%	1,098 kg	7.2%	▲4,309 kg	—	-392.4%	×	・複数の課で使用量が増加したため(新規事業、生徒数の増加等) ・自前での印刷の増。 ・市民向けイベントや啓発など新たな発信の機会が増えている。
	ごみ排出量	ごみの排出量を2009(平成21)年度比で50.0%以上削減する。(39,947 kg相当)	-50.0%	39,947 kg	-45.5%	36,354kg	—	91.0%	○	ごみ半減プランでは、平成32年度50%削減を目標としている。
健全な水循環	水使用量	水使用量を2015(平成27)年度比で増加させない。(2015(平成27)年度実績:254,944m ³)	—	—	-7.2%	18,232 m ³	—	92.8%	○	

「増加させない」目標に対する評価

評価区分	4段階評価
110%以上	◎
90~110%未満	○
60~90%未満	△
60%未満	×

評価区分	4段階評価
105%以上	×
100.1~105%未満	△
90~100%以下	○
90%未満	◎

3-2 計画に基づく施策（【帳票2】個別事業に関する進捗状況等）

(1) 個別事業進捗状況自己評価結果一覧表

所属	事業NO.	事業名	計画との比較
広報広聴課	7	広報紙への環境啓発記事の掲載	b) ほぼ計画通り
総務課	19	事業所向け中規模太陽光発電システム(10kW以上)整備への支援	b) ほぼ計画通り
防災安全課	44	コミュニティバスの整備拡充	b) ほぼ計画通り
防災安全課	46	地域公共交通総合連携計画に基づく公共交通の利用促進	b) ほぼ計画通り
市民活動推進課	19	事業所向け中規模太陽光発電システム(10kW以上)整備への支援	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	2	集合住宅のスマートコミュニティ推進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	3	高齢者にやさしいコンパクトシティの整備	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	6	資源循環・エネルギー自給に関する市民の啓発	c) 計画より遅れている
環境モデル都市推進課	10	リユースびん商品の普及	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	13	省エネルギー診断の推進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	14	低炭素ライフスタイルの提案(節電対策)	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	15	民間事業者の省エネルギーの推進(周知・啓発)	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	16	民間事業者の省エネルギーの推進(インセンティブ)	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	17	省エネ性能の高い家電製品への買い替え補助	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	18	太陽光発電普及促進事業補助	c) 計画より遅れている
環境モデル都市推進課	19	事業所向け中規模太陽光発電システム(10kW以上)整備への支援	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
環境モデル都市推進課	20	太陽熱利用システムの普及促進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	22	家庭用燃料電池設置補助	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
環境モデル都市推進課	23	民間事業所(医療機関、福祉施設等)向けコージェネレーションシステム整備への補助	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	25	市の公共施設におけるコージェネレーション導入検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	26	バイオマスタウン構想に基づく取り組みの推進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	27	新電力・地域エネルギー会社の設立検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	28	居住継続性能住宅の開発促進	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
環境モデル都市推進課	29	ICTを活用した市域の温室効果ガス排出削減政策の検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	30	HEMS導入支援(戸建て住宅向け)	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
環境モデル都市推進課	31	MEMS導入支援(集合住宅向け)・BEMS導入支援(事業者向け)の検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	32	公共施設におけるBEMSの導入	c) 計画より遅れている
環境モデル都市推進課	33	エネルギーの面的需要を管理するCEMSの導入検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	34	情報サービス・新規コミュニティサービスの導入検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	35	資源循環の拠点としての「エコパーク21」のあり方について検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	36	地域コミュニティ単位で、資源循環の拠点となる発電・熱・CO2生産設備導入の検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	37	CO2を活用した野菜・果物の栽培支援の検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	38	地産地消サイクルの構築検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	39	奈良県やけいはんな学研都市との連携によるEVステーションの設置、ICTを活用したEV利用環境の整備促進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	40	市の公用車や既存コミュニティバス等のEVへの更新	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	41	超小型モビリティの導入検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	42	バイオガス・天然ガス・水素ガス車への転換と、エコエネルギーステーションの開設検討	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	45	自転車利用の促進・市民の健康増進	b) ほぼ計画通り
環境モデル都市推進課	55	雨水タンク設置補助事業	c) 計画より遅れている
経済振興課	19	事業所向け中規模太陽光発電システム(10kW以上)整備への支援	b) ほぼ計画通り
経済振興課	38	地産地消サイクルの構築検討	c) 計画より遅れている
経済振興課	45	自転車利用の促進・市民の健康増進	b) ほぼ計画通り
環境保全課	8	ごみ減量市民向け啓発	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
環境保全課	9	フリーマーケット等の開催	b) ほぼ計画通り
環境保全課	57	ゴミ半減プランに基づき、平成32年度までに21年度比で、家庭系可燃ごみを半減(家庭ゴミ有料化の実施など)	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
健康課	45	自転車利用の促進・市民の健康増進	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
管理課	47	市道の適切な維持管理 <橋梁定期点検>	b) ほぼ計画通り
管理課	47	市道の適切な維持管理 <橋梁予防保全>	c) 計画より遅れている
都市計画課・学研推進室	2	集合住宅のスマートコミュニティ推進	b) ほぼ計画通り
都市計画課・学研推進室	3	高齢者にやさしいコンパクトシティの整備	b) ほぼ計画通り
建築課	4	省エネリフォーム支援	c) 計画より遅れている
建築課	50	開発行為における環境配慮	b) ほぼ計画通り
みどり公園課	48	公園整備や野外イベントの開催など、市民が自然と触れ合う機会の拡大	b) ほぼ計画通り
みどり公園課	49	緑の基本計画、景観計画に基づく緑化の推進	b) ほぼ計画通り
みどり公園課	51	市民向け生垣助成	b) ほぼ計画通り
みどり公園課	52	緑被率、緑視率指標の導入と向上	b) ほぼ計画通り
下水道課	53	合併処理浄化槽設置推進	c) 計画より遅れている
下水道課	56	効率的な汚水処理施設整備基本計画に基づき、平成30年までに72.9%普及	b) ほぼ計画通り
竜田川浄化センター	54	浄化センターでの市民啓発	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
上下水道部総務課	12	飲料用容器包装の削減(マイボトル持参促進)	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
上下水道部総務課	12	飲料用容器包装の削減(水道水利用啓発)	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施
上下水道部 浄水場	21	上水道施設での小水力発電	b) ほぼ計画通り
教育総務課	58	教育施設における再生可能エネルギー・省エネ設備の導入	b) ほぼ計画通り
教育指導課	59	環境・エネルギー学習プログラムの検討	b) ほぼ計画通り
教育指導課	60	エコスクールへの応募(グリーンフラッグの取得)	b) ほぼ計画通り
教育指導課	61	環境教育の担い手育成	b) ほぼ計画通り
教育指導課	62	全小中学校での環境教育の実施	b) ほぼ計画通り
生涯学習課	11	市民向け環境講座の実施	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施

(2) 監査結果まとめ

今回の監査では、(1)に記載している自己評価による進捗状況を用いて以下の算出方法により4段階の仮評価をつけ、ヒアリング実施結果をふまえて本評価を決定する方式を採りました。従って、ヒアリングを実施していない所属については、進捗評価ではなく、「評価できる点」「改善を要する点」について、全所属にコメントを付しました。(3-3も同様)

<仮評価算出方法>

①所属ごとの自己評価による計画の進捗を以下の評点区分に基づき点数化し、点数区分ごとの取組数をかけて合計点数を算出

評価	点数
a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施	2点
b) ほぼ計画通り	1点
c) 計画より遅れている	0点
d) 取り組んでいない	-1点

②各所属によって取組数が異なるため、算出した合計点数を取組数で割って指数化

③指数を以下の区分に応じて4段階で評価

評価区分	仮評価
110～	◎
90～109	○
70～89	△
～69	×

<仮評価一覧>

所属名	a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施	b) ほぼ計画通り	c) 計画より遅れている	d) 取り組んでいない	取組数	合計点数	評価指数	仮評価
広報広聴課		1			1	1	100	○
総務課		1			1	1	100	○
防災安全課		2			2	2	100	○
市民活動推進課		1			1	1	100	○
環境モデル都市推進課	4	26	4		34	34	100	○
経済振興課		2	1		3	2	67	×
環境保全課	2	1			3	5	167	◎
健康課	1				1	2	200	◎
管理課		1	1		2	1	50	×
都市計画課・学研推進室		2			2	2	100	○
建築課		1	1		2	1	50	×
みどり公園課		4			4	4	100	○
下水道課		1	1		2	1	50	×
竜田川浄化センター	1				1	2	200	◎
上下水道部総務課	2				2	4	200	◎
浄水場		1			1	1	100	○
教育総務課		1			1	1	100	○
教育指導課		4			4	4	100	○
生涯学習課	1				1	2	200	◎
総計	11	49	8	0	68	71		

<ヒアリング監査実施後の本評価>

ヒアリングを実施した結果、2つの所属においての本評価が○から◎、×から△にそれぞれ変更になりました。評価が上がった理由は次のとおりです。

- ・ 広報広聴課
担当課と連携し、環境関連記事を目標の2倍掲載しており、紙面も分かりやすくなるよう工夫している。
- ・ 建築課
計画が2つあり、1つは遅れているが、1つは計画通り進捗している。

所属名	仮評価	本評価
広報広聴課	○	◎
総務課	○	○
防災安全課	○	○
市民活動推進課	○	○
環境モデル都市推進課	○	○
環境保全課	◎	◎
都市計画課・学研推進室	○	○
建築課	×	△
みどり公園課	○	○
浄水場	○	○
教育総務課	○	○
教育指導課	○	○
生涯学習課	◎	◎

3-3 エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況

【帳票3】エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況

監査結果まとめ

エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況については、取組目標を設定した上で進捗状況を報告する【帳票3】と、全職員に共通したエコオフィスの取組と独自施策の実施状況を自己評価する【帳票3（別紙）】の2帳票に基づき監査を実施しました。

・ 帳票3

帳票3の評価方法については、取組目標が適切な数設定されているか、意欲的に取り組む姿勢があるか、という視点で3段階による仮評価をつけた後、ヒアリング実施所属については取組の内容・実施状況をふまえ、基準を設けた上で、4段階で本評価を決定する方式を採りました。

<仮評価算出方法>

取組項目設定数	3段階評価
6以上	◎
3以上	○
2以下	×

<仮評価>

全ての所属が設定の条件数としていた3項目以上の目標設定をおこなっており、条件の倍以上である6項目以上の目標を設定している所属も40ほどありました。

【取組項目設定数6以上の所属一覧】

所属名	取組項目設定数
契約検査課	9
市民活動推進センター	9
環境モデル都市推進課	7
高山竹林園	6
人権施策課	7
小平尾南児童館	7
ディサービスセンター長楽	6
障がい福祉課	7
福祉センター	21
宮繕課	6
生駒山麓公園	12
下水道課	7
上下水道部総務課	6
あすか野小学校	7
桜ヶ丘小学校	17
鹿ノ台小学校	6
生駒東小学校	8
生駒南小学校	9
生駒南第二小学校	11
上中学校	7
生駒南中学校	6
緑ヶ丘中学校	6
生駒台幼稚園	7
俵口幼稚園	6
なばた幼稚園	10
壺分幼稚園	6
南こども園(みなみ保育園・南幼稚園)	6
たけまるホール	7
生駒ふるさとミュージアム	6
鹿ノ台ふれあいホール	6
南コミュニティセンター	6
北コミュニティセンター	8
図書会館	6
スポーツ振興課	11
小平尾南スポーツ施設	7
総合公園スポーツ施設	7
むかいやま公園スポーツ施設	6
井出山公園スポーツ施設	13
生駒北スポーツセンター	15
消防署・予防課	6

<本評価算出基準>

取組の内容、実施状況	4段階評価
独自の工夫が凝らされている/新しい取組である/大きな成果を挙げている	◎
妥当な取組がなされている	○
取組に改善を要する点が見られる	△
取組の改善点が多数あり改善の姿勢も見られないため勧告を要する	×

<ヒアリング監査実施後の本評価>

ヒアリングを実施した結果、4つの所属においての本評価が○から◎に変更になりました。評価が上がった理由はそれぞれ次のとおりです。

- ・中保育園
子どもが中心となって、独自性のある取組を推進している。
- ・政策企画推進課
大幅なペーパーレスの実績をあげていることに加え、ペーパーレスの定着を図っている。
- ・教育支援施設
新たな情操教育として、花木の育成取組を充実させている。
- ・あすか野幼稚園
クリーンデーやリサイクルデーなどの取組から、園児に意識が根付いてきている。

所属名	仮評価	本評価
防災安全課	○	○
教育総務課	○	○
市民活動推進課	○	○
病院事業推進課(地域医療課)	○	○
南こども園	◎	◎
鹿ノ台小学校	◎	◎
中保育園	○	◎
市民課	○	○
環境保全課	○	○
子育て支援総合センター/こどもサポートセンター	○	○
政策企画推進課	○	◎
教育指導課	○	○
教育支援施設	○	◎
生駒南第二小学校	◎	◎
課税課	○	○
都市計画課・学研推進室	○	○
デイサービスセンター幸楽	○	○
広報広聴課	○	○
生涯学習課	○	○

所属名	仮評価	本評価
学校給食センター	○	○
生駒北小中学校	○	○
環境モデル都市推進課	◎	◎
なばた幼稚園	◎	◎
あすか野幼稚園	○	◎
男女共同参画プラザ	○	○
人事課	○	○
建築課	○	○
高齢施策課	○	○
ふるさとミュージアム	◎	◎
浄水場	○	○
桜ヶ丘小学校	◎	◎
吉分幼稚園	◎	◎
総務課	○	○
人権施策課	◎	◎
みどり公園課	○	○

・帳票3（別紙）

帳票3（別紙）に記載の取組を、「実施した」、「実施していない」、「該当しない」の中から選択してもらうことで、実施率を把握しましたが、「実施していない」と「該当しない」の判断基準が明確ではなかった等の声がありました。

そこで、評価方法としては、ヒアリング時に詳しく話を聞くこと等によって概ねどの程度の実施がなされている状況かを確認した上で評価を決定しました。

実施状況 (%)	評価
概ね 90 以上	◎
概ね 60～89	○
概ね 30～59	△
概ね 29 以下	×

所属名	本評価
防災安全課	○
教育総務課	◎
市民活動推進課	○
病院事業推進課(地域医療課)	○
南こども園	◎
鹿ノ台小学校	◎
中保育園	◎
市民課	◎
環境保全課	◎
子育て支援総合センター/子どもサポートセンター	◎
政策企画推進課	○
教育指導課	○
教育支援施設	◎
生駒南第二小学校	◎
課税課	◎
都市計画課・学研推進室	○
デイサービスセンター幸楽	◎
広報広聴課	◎
生涯学習課	◎
学校給食センター	○
生駒北小中学校	◎
環境モデル都市推進課	◎
なばた幼稚園	◎
あすか野幼稚園	◎
男女共同参画プラザ	◎
人事課	◎
建築課	◎
高齢施策課	◎
ふるさとミュージアム	◎
浄水場	○
桜ヶ丘小学校	△
壱分幼稚園	○
総務課	○
人権施策課	◎
みどり公園課	◎

4. 次年度方針への反映事項

(1) 平成 29 年度公共施設における数値目標

平成 28 年度の目標達成状況や市の環境関連施策の状況等をふまえ、専門チーム会議で審議し、平成 29 年度の公共施設における数値目標及び評価基準を次のように設定しました。

目的	項目	平成 29 年度 目標	
地球温暖化の防止	二酸化炭素排出量の削減	市の事務・事業から排出される二酸化炭素排出量の総量を 2010（平成 22）年度比で 15.2%以上削減する。（1,138t-CO ₂ 相当）（※）	
	電気使用量の削減	電気使用量を 2010（平成 22）年度比で 15.0%以上削減する。（2,261 千 kWh 相当）	
	公用車	ガソリン	ガソリン使用量を 2010（平成 22）年度比で 20.0%以上削減する。（15,526 l 相当）
		軽油	軽油使用量を 2010（平成 22）年度比で 60.0%以上削減する。（37,576 l 相当）
	燃料	都市ガス	都市ガス使用量を 2010（平成 22）年度比で 21.0%以上削減する。（52,181kg 相当）
		重油	重油使用量を 2010（平成 22）年度比で 10.0%以上削減する。（29,640 l）
		灯油	灯油使用量を 2010（平成 22）年度比で 25.6%以上削減する。（7,724 l）
		L P G	LPG 使用量を 2016（平成 28）年度比で増加させない。（※2016（平成 28）年度実績：72 t）
循環型社会の構築	紙類使用量	OA 用紙の使用量を 2016（平成 28）年度比で 5.0%以上削減する。（2015（平成 27）年度比で増加させない。）（3,211kg 相当）	
	ごみ排出量	ごみの排出量を 2009（平成 21）年度比で 50.0%以上削減する。（39,947kg 相当）	
健全な水循環	水使用量	水使用量を 2016（平成 28）年度比で増加させない。（※2016（平成 28）年度実績：236,691 m ³ ）	

（※）環境モデル都市アクションプランの中期目標である 2030（平成 42）年度 35%削減（2006（平成 18）年度比）を最終目標としている。2016（平成 28）年度は、新施設の開設によるエネルギー使用量の増、設備の劣化・性能不良の影響があったが、2017（平成 29）年度においても、新施設の開設によるエネルギー使用量の増を考慮し、目標を設定する。

(2) 帳票 3 における優良事例の整理

帳票 3 で提出された取組の中から次の①～③の観点で優良事例を抽出しました。抽出した事例は、平成 29 年環境マネジメントシステム運用方針の「過去の優良事例一覧」に追加し、全所属での水平展開につなげます。

<抽出の観点>

①独自の工夫が凝らされている ②新しい取組である ③大きな成果を挙げている

所属等		所見
市長公室	政策企画推進課	新規主要事業ヒアリングにおいて、ペーパーレス会議に取組み、約 13,000 枚の紙を削減した。
総務部	情報政策課	各種システムの一部をクラウド化し、サーバー機器台数を 6 台削減した。前年度からトータルすると全体の 3 分の 1 削減し、消費電力削減に努めている。
地域活力創生部	環境モデル都市推進課	近畿大学、教育委員会と連携し、市内小学生を対象に参加型の新たな環境教育プログラムを立案した。
市民部	環境保全課	・絶滅危惧種であるカワバタモロコの孵化に成功した。 ・子ども向けにキエーロの製作講座をおこなった。
福祉健康部	デイサービスセンター長楽	古新聞を、書道の練習、はり絵などのレクリエーションや紙のごみ箱に使用している。
福祉健康部	健康課	電動自転車や前年度に導入した 1 人乗り電気自動車「コムス」を家庭訪問時等工夫して活用し、きちんと利用記録を残しながら CO2 排出を抑制している。
福祉健康部	やすらぎの杜優楽	①調理業者へ食品残渣堆肥化の協力要請を実施している。 ②利用者に負担のない節水システムを取り入れている。
建設部	営繕課	雨水貯留や地中熱利用のヒートポンプなど、本来業務において設備の設置更新に積極的に取り組み、成果が出ている。
教育振興部	教育支援施設	支援施設としての情操教育の一環として、花、木などの育成に取り組む。
教育振興部	桜ヶ丘小学校	①エコ委員会を中心とした積極的な環境活動 ・徹底した分別、昼休み消灯、節水 ・ミックスペーパーなどの紙リサイクル活動で 2,000kg/年以上回収実績をあげている。 ②保護者会、民生委員との地域連携でペットボトルキャップと古紙の回収をしている。
教育振興部	鹿ノ台小学校	①地域ボランティアのゲストティーチャーを招いた環境教育を実施している。 ②制服のリユースや芝生化した運動場の管理を地域と推進している。
教育振興部	生駒東小学校	・ガスヒューブと緑のカーテンによる断熱化、緑化 ・ピオトープによる生物多様性の取組 ・エコ委員会による月平均 8kg のペットボトルキャップ回収 ・降水確率を意識した花の水やり
教育振興部	生駒南第二小学校	エコ委員会等で子どもたちが中心となり地域と共に活動を展開し、エコスクール審査においてグリーンフラッグを継続取得している。
教育振興部	中保育園	子どもの発想によるみずたまレンジャー隊の節水取組を実施し、それが分別レンジャーの活動につながり、ごみの減量化を推進するなど、子どもが中心となる取組を実践している。
教育振興部	あすか野幼稚園	月 1 回のクリーンデー(清掃活動)と月 2 回のリサイクルデー(家庭から不用になったものを園児が持ち寄る)に取組み、園児に清掃・分別活動を根付かせている。
教育振興部	なばた幼稚園	緑ヶ丘中学校区との地域ぐるみによる“グリーンクリーン活動”に参加し、地域とともに活動を展開しているとともに、月に 1 回“幼稚園をきれいにする日”をもうけている。
教育振興部	南こども園	園児が関心を持つリサイクルレンジャーに扮装し、分別意識を持たせる教育及びエコ通信による保護者への啓発を実施している。
生涯学習部	生駒ふるさとミュージアム	館のイベントに、環境をテーマにしたものをうまく組み合わせ、来館者の増加につなげている。(棚田保全講演会、牛乳パックでの絵はがきづくり、パケツを使ったお米づくりなど)

5. 次年度の運用における改善点

今年度の運用において、以下のような改善点がありましたので、次年度の運用方針等に反映することが望まれます。

システムの運用について

- ・環境マネジメントシステムの運用期間が実質的に1年間ではなく、10月～3月までの半年間になっているので運用上の工夫が必要

ヒアリング監査について

- ・監査には、エコ推進責任者が主体的に出席してもらっているが、現場での運用状況をより詳細に把握するため、可能な限りエコ推進員にも同席してもらうのがよい

優良事例について

- ・各班で抽出した優良事例について、全体で議論する時間が少ない

帳票について

(書式に関すること)

- ・帳票3に、所属する職員の人数欄を追加
- ・帳票3別紙の選択肢を、「実施した」「実施していない」から「完全に実施した」「ほぼ実施した」など、実施状況の程度を反映できるものに変更を検討する必要がある

(記入方法に関すること)

- ・帳票3別紙の記入方法について、記入担当者による勘違いが見受けられたため、「実施していない」と「該当しない」の違いなど、記入要領を丁寧に説明する必要がある

添付 1. エコオフィス、本来業務における環境配慮項目の実施状況【帳票 3 別紙 集計結果】

分野	項目No.	取組	平成28年度実施状況
(全職員に共通した取組) エコオフィスの取組	1	職場内で省エネルギー(電気、ガス、灯油などの利用削減や効率的利用)に取り組む	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> 【照明】業務や市民サービスに支障がない範囲で、間引き消灯や昼休み消灯を実施する。 【照明】時間外勤務や休日勤務時は、必要な箇所のみ点灯する。 【照明】窓側や廊下で十分な採光が確保される場合は、消灯する 【パソコン・機器】パソコンの節電対策を徹底する。 【パソコン・機器】昼休みや長時間自席を離れるときなど、パソコンやOA機器を使用しない時は、電源を切る 【パソコン・機器】シュレッダー等常時使用しない機器類は、使用するときに電源を入れ、使用後は必ず電源を切る。 【パソコン・機器】退庁時には、パソコン本体、プリンターの電源を必ず切る。 【パソコン・機器】最後に帰る人は、パソコン、コピー機等電気機器類の電源の切り忘れがないかを確認する。 【パソコン・機器】階段の使用を励行し、エレベーターの使用をできるだけ控える。 【夏季・冬季節電対策】空調の温度設定は、夏期28℃、冬期19℃とする。 【夏季・冬季節電対策】推進本部が決定する節電対策メニューを徹底する。 <p>■ 1.実施した ※ 2.実施していない ❏ 3.該当しない</p>
	2	職場内で節水や排水時の環境負荷低減に取り組む	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> 洗面所やトイレの使用の際には、必要以上に水を流さず節水に努める。 水道の使用後は、水栓の止栓を確認する。 せっけん、洗剤は必要な量だけ使う。 食器を洗う時は、必要以上に水を流さず節水に努める。 <p>■ 1.実施した ※ 2.実施していない ❏ 3.該当しない</p>
	3	職場内で紙使用の抑制再利用リサイクルに取り組む	<p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> 両面印刷、縮小印刷機能の活用を徹底し、紙の使用量を減らす。 使用済み用紙(片面使用済み用紙)の裏面活用を徹底する。 コピー機の横に使用済み用紙をストックできる容器を設置する。また、設置する場合は、「片面使用済み用紙」「両面使用済み…」 コピー機の使用後は、次に使用する人がミスコピーをしないように、必ずリセットボタンを押す。 プリントアウトするときは、 unnecessary部分まで印刷しないよう、よく確認して必要な部分のみ印刷する。 簡易な供覧については、プリントアウトしないでメールで送るなど、庁内LANを活用する。 会議資料等は工夫してできるだけ簡素化し、作成部数の適正化を徹底する。 印刷物は、配布先や内容を精査し、必要最小限のページ数、部数とする。 使用済み封筒は、庁内で活用する。 <p>■ 1.実施した ※ 2.実施していない ❏ 3.該当しない</p>

4	<p>職場内で廃棄物の発生抑制再使用リサイクルに取り組む</p>	<p>平成27年4月の家庭系ごみ有料化に伴い、市役所が率先垂範してごみ減量を徹底する。</p> <p>ごみの分類については、「ごみ・リサイクル資源の分類及び排出方法」を基準として、各所属で分類方法を決定し、エコ推進責…</p> <p>ファイル等は、可能な限り再利用する。</p> <p>びん、缶、ペットボトルなどは、所定の場所に設置されたリサイクルボックスに出す。</p> <p>個人用のごみ箱は撤廃し、ごみ箱を共有する。</p> <p>プラスチック製容器包装について分別を徹底し、資源化する。</p> <p>個人情報が含まれた文書を大量に処分する場合でも、できる限り焼却処分せずにシュレッダー処理をし、資源化する。</p> <p>市役所も市内の一事業者であるとの認識を徹底するため、各課の事業に伴うごみや、一時的に多量に出るごみについては、…</p> <p>会議等での飲料は原則提供しない。</p> <p>会議等の開催前に参加者には必要に応じてマイボトル等を持参してもらい呼びかける。</p> <p>長時間に及ぶ会議など、飲料が必要となる場合には、会場の隅に湯茶やリユースびん入り飲料と湯飲みやガラスコップなどと…</p> <p>イベント等会議以外で飲料を提供する場合についても、上記の趣旨を尊重し、リユース容器の使用に努めること。</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>
5	<p>職場で使う製品のグリーン購入(再生紙、環境配慮型製品の使用など)や地場産品の購入に取り組む</p>	<p>物品の購入にあたっては、まずその必要性をよく検討し、必要と判断した場合は、適正な量をよく検討した上で購入数量をできるだけ抑制する。</p> <p>物品を購入する際には、環境負荷の低減を図るため、環境に配慮された物品を優先的に調達する。</p> <p>コピー機やプリンターのトナーについては、リサイクル可能な商品を購入する。また、使用後は回収業者に回収してもらう。</p> <p>電化製品などの新規購入や買い替えの際には、製品に表示されている省エネラベルなどを参考にし、省エネ性能に優れた製品を購入する。</p> <p>使い捨て製品は、できるだけ購入を控える。</p> <p>不要な袋や包装は断り、簡易包装での納品を要請する。また、その旨を仕様書に明記する。</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>
6	<p>公用車利用による環境影響の抑制(職員の勤務中の公用車利用の抑制、エコドライブ、自転車の利用や低公害車の導入など)を実施する</p>	<p>県庁への出張など、公共交通機関を利用できる場合は、公用車の使用を控える。</p> <p>近距離では、公用自転車を利用する。</p> <p>公用車を使用する際には、できるだけ低公害車や燃費のよい車を優先的に利用する。</p> <p>環境モデル都市推進課の所有する電気軽自動車を積極的に活用する。</p> <p>急発進急加速や空ぶかしはしない、燃費の向上に努める。</p> <p>3分以上停車することが予想される際には、アイドリングストップを励行する。</p> <p>運転前点検時には、タイヤの空気圧が下がっていないか確認する。</p> <p>走行経路を精査し、無駄な走行を無くす。</p> <p>可能な場合は、相乗りをするよう心がける。</p> <p>公用車の新規購入にあたっては、低公害車を積極的に導入する。</p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>

7	職員の通勤時の直接的環境影響の低減(マイカー使用の抑制、エコドライブ、公共交通機関や自転車の使用など)を実施する	<p>近距離の通勤にはなるべく徒歩又は自転車を利用する。</p> <p>通勤にはなるべく公共交通機関を利用する。</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>
8	庁舎施設内に常在する者(施設管理者、食堂、売店スタッフ等)に環境配慮の要請をする	<p>【要請内容】社用車の環境に配慮した運転の励行(アイドリングストップや急発進急加速の禁止等)</p> <p>【要請内容】省エネ、省資源、ごみ減量への取組</p> <p>【要請内容】その他、業務営業等における環境への配慮</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>
9	庁舎施設へ出入りする事業者に環境配慮の要請をする	<p>【要請内容】物品納入の場合には、過剰な包装はしないこと。</p> <p>【要請内容】物品納入時の包装容器の持ち帰り</p> <p>【要請内容】弁当などの空容器の回収</p> <p>【要請内容】職員への unnecessary 個別チラシの配布自粛</p> <p>【要請内容】社用車の環境に配慮した運転の励行(アイドリングストップや急発進急加速の禁止等)</p> <p>【要請内容】その他、業務営業等における環境への配慮</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>
10	公共施設の利用者に対し環境配慮の要請をし、その状況を確認する	<p>【要請内容】電気ガス冷暖房等の消し忘れの確認やごみの持ち帰りなどの呼びかけ</p> <p>■ 1.実施した ■ 2.実施していない ▨ 3.該当しない</p>
11	その他エコオフィスの取組	<p>実施した所属数</p> <p>0 10 20 30 40 50</p> <p>その他エコオフィスの取り組み</p>
12	公共施設における再生可能エネルギー(太陽光、風力、バイオマスなど)の活用を検討し、導入する	<p>実施した所属数</p> <p>0 10 20 30 40 50</p> <p>公共施設における再生可能エネルギー(太陽光、風力、バイオマスなど)の活用を検討し、導入する</p> <p>公共施設において環境配慮型設備の設置更新(高効率省エネ型設備、断熱化、緑化など)を検討し、導入する</p> <p>再生可能エネルギーの利用や省エネルギー活動を実践することにより、災害に強い低炭素型のまちづくりを進める</p> <p>環境負荷の少ない移動手段の確立を進める</p> <p>健全な水循環や、清らかな水辺環境の維持回復を進める</p> <p>森林農地の持つ環境保全機能を維持し、生物多様性の保全創造を進める</p> <p>廃棄物の排出や有害物質の使用を減らし、資源の循環利用を進める</p> <p>地域資源の活用や地域間連携による産業育成やまちづくりを進め、食糧や主要な資源の自給度を高める</p> <p>本来業務における環境配慮</p> <p>その他独自施策</p>
13	公共施設において環境配慮型設備の設置更新(高効率省エネ型設備、断熱化、緑化など)を検討し、導入する	
14	再生可能エネルギーの利用や省エネルギー活動を実践することにより、災害に強い低炭素型のまちづくりを進める	
15	環境負荷の少ない移動手段の確立を進める	
16	健全な水循環や、清らかな水辺環境の維持回復を進める	
17	森林農地の持つ環境保全機能を維持し、生物多様性の保全創造を進める	
18	廃棄物の排出や有害物質の使用を減らし、資源の循環利用を進める	
19	地域資源の活用や地域間連携による産業育成やまちづくりを進め、食糧や主要な資源の自給度を高める	
20	本来業務における環境配慮	
21	その他独自施策	

(各部署で環境取組策)

添付 2. 監査結果のフィードバック（所属別）

・ヒアリング実施所属

所属名	評価結果			評価できる点	改善を要する点
	計画に基づく施策の進捗状況	エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況	エコオフィス、本来業務における環境配慮項目の実施状況		
政策企画推進課	—	◎	○	ペーパーレス会議に取り組み、目標を達成した後も引き続き継続していることに加え、実施後のアンケートで参加者の意見を聞き、ペーパーレス会議の定着を図っている点が素晴らしく評価できます。	エコオフィスの取組で実施していない項目については、できることから実践してください。
広報広聴課	◎	○	◎	①事業担当課と連携をとり、計画していた環境啓発関連記事について、計画を上回る回数掲載している点が評価できます。 ②取材における公用車の利用を極力抑え、公共機関や電気自動車の活用に心がけている点も評価できます。	環境配慮のために広報「いこまち」に再生紙と大豆インクを使用している点は評価できるため、他事業や他部署の印刷物でもそのような配慮ができるよう、周知・啓発の工夫ができると良いです。
人事課	—	○	◎	エコスタイル、ウォームビズなど、エアコン設定温度の管理に取り組み、ペーパーレスにも力を入れている点が評価できますが、さらなる推進を期待しています。	①エコオフィスの取組を食堂業者・職員互助会及び臨時職員に定着させるためにどのように行動していくか、次回の目標設定時に具体化してください。 ②残業時間削減に向けた取組を、次回の目標設定時に具体化してください。
総務課	○	○	○	太陽光発電システムの設置や、電灯のLED化など、市役所全体に影響を及ぼす重要な取組を推進している点が評価できます。	目標設定時には、可能な限り達成状況が把握できるよう、定量的な数値で設定してください。
防災安全課	○	○	○	緊急災害時の備蓄品を期限切れ前に計画的に利用している点が評価できます。	コミュニティバス利用者の目標人数を達成する為、住民ニーズをさらに把握するための手段を検討してください。 また、高齢者を意識した対策など、長期的な視点での判断を推奨します。
市民活動推進課	○	○	○	①庁内メールの活用などで紙の使用量の抑制に努めています。 ②グリーン購入法適合品を優先して購入していること等、省エネ、省資源に積極的に取り組んでいる点が評価できます。	自治会向け太陽光発電システム設置への補助金交付について、普及が進まない理由を分析し、環境モデル都市推進課と連携して、効果的な周知方法を導入してください。
環境モデル都市推進課	○	◎	◎	①地域エネルギー会社の設立に向けた取組を進め、誰にとっても暮らしやすいまちの実現に一步前進させた点が評価できます。 ②機構改革による係数の減少、前年度に全国規模の会議を開催等の理由もありますが、環境マネジメントシステムに係る業務の見直し等により、紙購入量を前年度比55%削減した点が評価できます。	課で保有している電気自動車の利用について、どこかの部署でも利用できるしくみづくりを進め、利用促進を図ってください。
市民課	—	○	◎	一度の外出時に用事をまとめて処理をする工夫をして、公用車利用抑制に努めている点が評価できます。	紙使用量削減につながるコンビニ交付普及のため、マイナンバーカード普及率の目標(H30年度30%)達成に向け、PRIに取り組んでください。
課税課	—	○	◎	身近な封筒の改良により、年間約8万通を環境に配慮した内容に変更した点が評価できます。	「ミックスペーパー」としてリサイクルできることを封筒に明記するなど、利用者への周知の工夫ができるとさらに良いです。
人権施策課	—	◎	◎	節電、節水、紙・廃棄物削減など環境配慮の多くの項目を重点的に取り上げて推進している点が評価できます。	①目標設定時には、可能な限り達成状況が把握できるよう、定量的な数値で設定してください。 ②独自の環境施策についても、実施できるものがないか検討してください。
男女共同参画プラザ	—	○	◎	紙の使用量を27年度比で5%減らす目標に対して、臨時事業が2つあったにも関わらず、17%の削減を達成した点が評価できます。	大きく目標達成したことの原因分析、目標数値の妥当性について検討した上で、次回の目標を設定してください。
環境保全課	◎	○	◎	①ごみ減量の取組で、自治会向け懇談会を4回実施し、市民への啓発と意見聴取を実施している点が評価できます。 ②絶滅危惧種のカワバタモロコ保全活動で、孵化に成功したことは素晴らしいです。 ③新規取組として、子ども向けにキエーロ製作講座を行ったことも評価できます。	①自治会向けの懇談会は非常に効果的だと思われるので、29年度は実施回数を増やしてもらいたいです。 ②カワバタモロコ保全活動以外にも、生物多様性に関する取組を、いくつか実施してください。
高齢施策課・地域包括ケア推進室	—	○	◎	紙の年間使用量が増加したことに対する要因の分析はできていました。	紙の使用量については、機構改革に伴う新組織体制に見合った目標を設定してください。
ディサービスセンター幸楽	—	○	◎	節水に努め、水の使用量10%削減の目標を達成されている点が評価できます。	紙を分別する環境は整っているため、今後は張り紙などで職員への周知や教育を徹底してください。
病院事業推進課(地域医療課)	—	○	○	ペットボトルによる飲料提供の中止等、ごみ排出量削減、省エネ省資源の活動に取り組んでいます。	市立病院に対して、病院の環境対策についての指導を実施してください。
都市計画課・学研推進室	○	○	○	省エネや紙使用抑制、リサイクルの実践など、エコオフィスの意識を持って取り組まれています。	やむをえない理由があり先進地視察ができなかったことは残念ですが、事業を前進させるためにも、次年度以降実現できることを期待しています。
建築課	△	○	◎	開発業者に対して環境配慮の指導をした点が評価できます。	省エネリフォームを促進するための方策について検討してください。また、市民に対する省エネリフォームの情報提供を積極的に行ってください。
みどり公園課	○	○	◎	本来業務の中で、市民が自然と触れ合う機会の拡大に取り組んでいる点が評価できます。	①目標設定時には、可能な限り達成状況が把握できるよう、定量的な数値で設定してください。 ②市街化推進と緑化推進という、相反する要因がある中ですが、緑の基本計画に基づき、引き続き施策を推進してください。
浄水場	○	○	○	①目標レベルや進捗状況の評価を定量的に把握されており、山崎浄水場における目標を上回る発電実績は素晴らしいです。 ②真弓浄水場では照明器具のLED化によって消費電力量を大きく削減しており、評価できます。	

所属名	評価結果			評価できる点	改善を要する点
	計画に基づく施策の進捗状況	エコオフィス、本来業務における環境配慮、独自施策の取組状況	エコオフィス、本来業務における環境配慮項目の実施状況		
教育総務課	○	○	◎	①教育施設に、再生可能エネルギーや省エネ設備の導入を実行した点が評価できます。 ②職場内でエネルギーや紙類等の節約を図ると共に、新規採用職員にも周知を実施しています。	教育施設への太陽光発電設置に向けたさらなる取組を、環境モデル都市推進課と連携しながら推進してください。
教育支援施設	—	◎	◎	①省エネルギー、紙使用抑制、ごみ削減、マイカー使用抑制、緑化と多くの具体策に取り組み、基本的な環境保全活動を職員一丸となって行う姿勢が窺えます。 ②緑化に関しては、ふるーらむと連携しながら実施しており、所属の枠を超えた取組が評価できます。 ③支援施設として、情操教育の一環で花の育成や蝶の生育に職員と子どもたちが一丸となり取り組んでいる点も評価できます。	
桜ヶ丘小学校	—	◎	△	①省エネ、節水、紙・廃棄物削減など、多項目にわたり、積極的な取組を展開しています。 ②グリーンカーテンや児童への環境教育の推進なども模範的な取組です。	①目標設定時には、目標レベルや達成状況が把握できるよう、可能な限り定量的な数値で設定してください。 ②帳票3「取組の進捗状況」欄には、さらに具体的な記載をしてください。 ③帳票3別紙で「実施していない」を選択している項目について再度見直し、取り組めるものから実行してください。
鹿ノ台小学校	—	◎	◎	①自然環境(野鳥・里山)の学習のため、地域ボランティアと一緒に推進しているのは良い取組です。 ②育友会と協力しながらエコキャップ・インクカートリッジの回収、制服リサイクルなどのエコ活動を行うなど、地域と連携した活動が大変評価できます。	パソコン、コピー機等の電源の切り忘れがない様に、徹底してください。
生駒南第二小学校	—	◎	◎	①エコ委員会で子どもたちが中心となり努力し、エコスクール審査でグリーンフラッグの継続が決まった点を素晴らしいと思います。 ②多くの取組目標を設定していることに加え、雨水タンクやごみ分別のエココーナー設置など、様々な工夫をされている点が評価できます。	
生駒北小中学校	—	○	◎	①新しい環境配慮型設備の機能を理解し、視察者など、外部に向けて積極的にPRする姿勢がうかがえました。 ②環境委員会によるエコキャップ運動を中心に、全校児童に呼びかけ、目標を大きく上回る27,200個回収の実績をあげているのは素晴らしいです。	児童・家族向けの大量の印刷物は、ミスがないよう職員間で重ねてチェックするように徹底してください。
教育指導課	○	○	○	環境関連4事業すべてが計画通り実施されており、エコ委員会、グリーンカーテン、節水の工夫、地域ぐるみの活動など、各校が独自に取組を進められる体制ができている点が評価できます。	①エコ活動にあまり積極的に取り組んでいない学校があれば、優良校の取組状況共有による水平展開ができないか検討してください。 ②グリーンフラッグの取組は非常に有効なので、登録校をさらに増やしていく取組を期待しています。
学校給食センター	—	○	○	新学校給食センターの設備として、生ゴミ削減のため省資源機器、低公害車の配送トラックの選定など、従来の経験を生かした環境配慮の取組が行われていました。	ボイラー担当者が目標設定を行い、重油量を減らすための努力をしていたことは評価できますが、センター内で共有されていませんでしたので、今後は全職員への周知徹底をしてください。
中保育園	—	◎	◎	雨水タンクの利用を進めながら、「みずたまレンジャー隊」が水漏れはないか毎日点検しており、また、インクカートリッジの回収体験を実施するなど、独自の環境教育を実践しており、素晴らしいです。	
あすか野幼稚園	—	◎	◎	①グリーンデイ、リサイクル日を定期的に設け、職員、園児、保護者を巻き込みエコ活動に取り組んでいる点が評価できます。 ②職員劇とおとしてリサイクルの大切さを園児に伝えるなど、独自の工夫もなされています。	地域への情報発信を強化すれば、既存の取組を地域にさらに広げられると思います。地域と連携した取組の推進を期待しています。
なばた幼稚園	—	◎	◎	年長者を対象にしたエコ体験事業の実施や、地域ぐるみのグリーンクリーン活動など、積極的な環境教育の取組が評価できます。これらの取組を今後も続けてください。	
宮分幼稚園	—	◎	○	省エネ、節水、紙・廃棄物削減の取組に加え、園児によるゴミ回収、エコ通信による啓発、不要カバン・ぬいぐるみの海外送付など独自の取組も積極的に展開されていて素晴らしいです。	項目No.3「紙使用の抑制再利用リサイクル」についても、数値目標の設定を検討してください。
南こども園(みなみ保育園・南幼稚園)	—	◎	◎	①出前講座、職員による劇、絵本、カルタ等をうまく活用し、環境教育を推進しています。 ②年度初めに各クラスで環境目標を設定し、実践している点に独自性があり、大変評価できます。	ごみ排出量、光熱費のグラフ化など、計画的な推進を期待しています。
子育て支援総合センター・こどもサポートセンター	—	○	◎	親子が集まる「ひろば事業」の中で、子どもや保護者に絵本を使ってリサイクルの重要性を分かりやすく説明されており、非常に良い取組です。	エコオフィスの取組で実施していない項目は、できるものから取り組んでください。また、取り組む際には、計画段階で、できる限り数値目標の設定をお願いします。
生涯学習課	◎	○	◎	市民向け環境講座では、自然物、ペットボトル再利用工作等「いこまっこ教室」を目標回数の2倍である8回開催しており、評価できます。	紙・ゴミ量の増加は、新規行事の増加や印刷物の内製化によるものが把握できているため、次年度以降は前年度と同様の目標値を設定するのではなく、目標値も見直ししていきましょう。
生駒ふるさとミュージアム	—	◎	◎	①省エネ、節水、紙・廃棄物削減など積極的な取組を展開され、目標レベルや進捗状況の評価を定量的に把握している点が評価できます。 ②地域の文化や歴史に関する講演会、子どもが自然に親しむ行事の開催を通じて環境保全に関連するテーマを独自の取組みとして積極的に推進されている点が素晴らしいです。	①項目No.2「節水の取組」について、水道使用量が削減された理由を継続して把握してください。 ②項目No.4「廃棄物の発生抑制・再利用リサイクル」についても、数値目標の設定を検討してください。

・書面監査のみの所属

所属名	評価できる点	改善を要する点
秘書課	①年間のごみ排出量について数値目標を設定して取り組み、達成された点が評価できます。 ②市長の出張時、電車・徒歩で移動できる場所への市長車での送迎を控えた点も良いと思います。	
消費生活センター	省エネ、廃棄物抑制等、各取組の進捗状況から、日常業務の中にエコオフィスの取組が定着しているように思います。	各取組で、数値目標を設定して進捗状況を把握するようにすると、効果が見えるようになります。検討をお願いします。
生駒駅前自転車駐車場 ・生駒駅前第2自転車駐車場	利用者に対してごみの持ち帰りなどの呼び掛けは市民を巻き込んだエコ活動としてまとめられます。	年間水道料金が目標値を大きくオーバーしたことに関して、要因を明確にした上で、次回の目標を設定してください。
生駒駅南自転車駐車場	年間使用水道料金の目標を達成できた点が評価できます。	
生駒駅南自動車駐車場	具体的な目標を掲げ、進捗状況も定量的に把握している点が評価できます。	①ゴミ箱撤廃に伴い、周辺へのゴミ廃棄が無いか継続して確認してもらいたいです。 ②帳票3別紙の未実施項目のうち、取り組めるものがないか再度確認した上で、次回の目標を設定してください。
生駒駅北地下自動車駐車場	いこま紙など、環境配慮型製品の活用を推進しています。	エコオフィス、本来業務における環境配慮項目の実施状況で、実施できていない項目が多いです。取り組めるものがないか再度確認の上、できることから実施してください。
ベルテラスいこま自動車駐車場	独自施策として、継続して壁面緑化に取り組まれている点が評価できます。	節電については、他にもできることがないか他所属の優良事例を参考に検討し、できることから取り組んでください。
契約検査課	①他課から片面使用済み用紙やファイルを譲り受ける等、積極的に取り組んでいる姿勢が窺えます。 ②コピー機のタイマー設定は、他所には見られない取組で評価できます。	目標設定時には、可能な限り、進捗状況を把握できる数値目標の設定が望まれます。
情報政策課	サーバー機器の台数を、計画どおり6台削減した点が評価できます。サーバー機器の削減によって、消費電力がどの程度削減されたのか分析しながら、今後の計画を立ててください。	
財政課	カラーボックスや紙ファイルなど、再利用が可能なものを集中して保管し、再利用推進に取り組まれている点が評価できます。	①目標設定時には、可能な限り数値目標を設定し、定量的な進捗管理が望まれます。 ②帳票3別紙に記載している「独自の環境施策(各部署での取組)」のうち、取り組めるものがないか検討してください。
市民活動推進センター	市民との関わりが多い職場として、啓発活動を継続して行い、エコオフィスの効果を上げている点が評価できます。	過去の優良事例を参考に、本来業務での取組や独自施策にもチャレンジしてください。
いこまの魅力創造課	①全ての職員がマイボトル、マイカップを持参し、会議等で参加者に飲み物を提供する際にも湯呑を使用するなど、高い意識を持って取り組んでいる点が評価できます。 ②転入促進冊子「育マチ、いこま」において、環境モデル都市の取組をわかりやすく紹介した点も素晴らしいです。	新設課になるので、今後、適切な数値目標を設定した上での取組が望まれます。
経済振興課	事業者向け太陽光発電システムの普及支援、地産地消サイクルの構築、ナラ枯れ被害防除など、重要なテーマを取り上げられています。	①目標設定時には、可能な限り数値目標を設定し、定量的な進捗管理が望まれます。 ②事業所向け太陽光発電システム設置への支援については、他の補助制度(国、県)との連携を検討し、実績につながるようにしてください。
高山竹林園	高山竹あかりで使用しているガラスコップを再利用するなど、省資源に積極的に取り組んでいる点が評価できます。	電気使用量が14%増加した要因を分析した上で、次回の取組目標を設定してください。
収税課	紙使用量削減のため、他のセクションのチラシと同時催告を行うなど、独自の工夫を実施されている点が評価できます。	取組にも関わらず、紙使用量が増加した要因を分析した上で、次回の目標を設定してください。
人権文化センター	省エネについて職員個人個人の取組状況を、中間報告日を設けて確認している点が評価できます。	他所属が取り組んでいる「過去の優良事例」等を参考とし、独自の環境施策に挑戦できれば良いと思います。
小平尾南老人憩いの家	施設利用者にも呼びかけての節電・節水、花植えによる快適空間の創出など、こまめな取組で施設サービスと環境活動を実践している点が評価できます。	目標設定時には、可能な限り数値目標を設定し、定量的な進捗管理が望まれます。
小平尾南児童館	みどりのカーテンや、花のまちづくりセンターの花苗を植えるなど、独自施策に積極的に取り組まれています。	①児童の健全な育成を図る各種活動が児童館の業務であることから、独自施策として子どもたちを巻き込んだ取組ができないか検討してください。 ②省エネルギー、水使用量削減の取組について、可能な限り目標数値を明確にし、データでの管理に取り組んでもらいたいです。
清掃センター	給気ファンの稼働台数を工夫することで、大きな節電実績をあげられた点が評価できます。	節電目標について、可能な限り定量的に効果が把握できる数値目標を設定してください。

所属名	評価できる点	改善を要する点
エコパーク21	電気・灯油使用量のミニマム化など、環境保全業務に携わる職場として、独自の視点でエコを積極的に実行している点が評価できます。更なる活動にも視点を広げて、先導役となってもらいたいです。	目標設定時には、可能な限り、各項目に取組の効果がわかる数値目標の設定が望まれます。
清掃リレーセンター	電気使用量、紙使用量共に目標以上の削減を達成している点が評価できます。照明器具のLEDへの交換により更に省エネ化が進むことを期待しています。	
金鶏の杜 倭苑	紙使用量削減、グリーンカーテン等積極的な取組をされ、目標レベルと進捗状況の評価を定量的かつ具体的に把握し、目標も達成している点が評価できます。	冬季の空調温度設定を24℃としていることに対して、利用者の声と節電効果の両方を比較検討した上で、次回の目標を設定してください。
RAKU-RAKUはうす	トイレを自動水洗にしたことで、年間水使用量を40%削減という大きな成果をあげている点が評価できます。	業務から発生するごみ削減についても積極的な取組を期待しています。
ディサービスセンター長楽	レクリエーションにおける古新聞の活用など、紙使用抑制、省エネ、ごみ抑制、エコドライブ等環境保全の基本をしっかりと行っていることが窺えます。	目標設定時には、可能な限り、各項目に取組の効果がわかる数値目標の設定が望まれます。
ディサービスセンター寿楽	電気、水道、ガス、ガソリン等の使用量と費用をグラフ化して取組を行い、電気代以外は前年より削減できている点が評価できます。	
障がい福祉課	紙削減は目標未達ですが、詳細な原因分析を行い改善につなげるなど、各目標に対し、積極的な姿勢が窺えます。	①省エネの取組は、目標設定時に可能な限り数値目標を設定し、定量的な進捗管理が望まれます。 ②他部署が実施する、過去の優良事例等を参考に、独自施策にチャレンジしてください
福祉センター	省エネルギーに積極的に取り組み、みどりのカーテンコンテストで、最優秀賞受賞の成果をあげている点が素晴らしいです。	身体を動かさず教室の開催など、室温の調節管理が難しいと思いますが、来訪者に対する環境配慮の啓発を継続して実施してください。
保護課	リサイクル商品の購入や、常時使用しない機器類は使用の時に電源を入れる等、できる事を継続して実施されています。	目標設定時には、設定した目標を達成するために何をするのか、具体的な実施レベルまで掘り下げて記載してください。
介護保険課	リサイクルや紙使用量抑制に取組んでおられます。	不要な印刷物発生の原因となった、システムの操作ミスを無くすための具体策の検討をお願いします。
健康課	①一人乗り電気自動車「コムス」を、保健師による家庭訪問事業等に積極的に取り入れている点が評価できます。 ②エコクッキングの啓発、ウォーキングを実施することに対する市民の動機づけ等、本来業務の中で、環境の取組をうまく関連づけて実施できています。	
やすらぎの杜優楽	調理業者への食品残渣堆肥化の協力要請などによるごみ減量、利用者に負担のない節水システムの取付けなど、きめ細かな環境取組を実践されています。	目標設定時には、可能な限り数値目標を設定し、定量的な進捗管理が望まれます。
生駒市立病院	蛍光灯をLEDに交換、朝礼でエネルギー量の対前日比報告、院内LAN活用など、具体的な取組を実行しています。特に、朝礼での報告は、職員の意識づけに有効であり、良い取組です。	院内の共有フォルダについて、全職員に周知徹底し、全職員による利用が進むことが望まれます。
国保医療課	省エネや紙使用抑制、リサイクル等、エコオフィスの意識を持って取り組んでいます。	目標設定時には、可能な限り、進捗状況が把握できる数値目標の設定が望まれます。
管理課	離席時のパソコン電源オフについて、職員同士でコミュニケーションをとりながら、課全体で節電の意識を高める風土をつくっている点が評価できます。	一般ごみの中にどの程度分別回収するものが混ざっているかどうか分析してください。分別について、判別の基準が認知されていないようであれば、ごみガイドブック等の再確認をお願いします。
事業計画課	本来業務の中で、街路灯のLED化や透水性舗装の導入など重要なテーマ取り上げられています。環境にやさしいまちづくりを積極的に推進されることを期待しています。	廃棄物の発生抑制の取組について、目標を達成できなかった要因を分析した上で、次回の目標を設定してください。
土木課	工事施工時の再生資材活用、排出ガス対応型建設機械の使用など、本来業務の中で環境配慮が実施されています。	工事施工に伴う、本来業務の取組を更に進めて下さい。
営繕課	雨水貯留、地中熱利用のヒートポンプシステム、節水型便器、照明のLED化など本来業務で環境配慮型設備の設置更新に積極的に取り組み、成果をあげている点が評価できます。	目標設定時には、可能な限り、各項目に取組の効果がわかる数値目標の設定が望まれます。
生駒山麓公園	①給水スポット協力店として幟を設置し、積極的にPRを実施している点が評価できます。 ②自主事業の中で、参加者が自然環境に触れ合える企画を実施していることも良い取組です。	改修工事時には、LED照明への切り替えを確実に実施していただきたいです。

所属名	評価できる点	改善を要する点
花のまちづくりセンター	コピー用紙の使用を抑制し、使用量を半減した点が評価できます。	電力使用量の削減と節水の環境負荷低減についても、可能な限り、取組効果が見える数値目標の設定が望まれます。
会計課	紙使用抑制の取組について、具体的に目標を立てて実践した結果、目標を達成しており評価できます。	今後はさらに一歩進んで、独自の取組等、新たな項目にチャレンジしてもらいたいです。
議会事務局	タブレットの導入検討を進めている点が評価できます。積極的な推進に期待しています。	燃費の向上に努めた結果、ガソリンの使用量がどのように変わったのか等、数値による進捗管理が望まれます。
監査委員事務局	目標レベルや進捗状況の評価を定量的に把握し、未達成項目の原因も確認できています。	
下水道課	工事竣工図面の電子データ授受によるペーパーレス化を図り、省資源に積極的に取り組まれています。	個別郵送や広報紙等での周知に加え、対面による説明の実施検討も含めて、下水道への未接続の宅地に対する水洗化促進を期待しています。
竜田川浄化センター	①市内12小学校のうち8校の施設見学を実施し、環境啓発に取り組んでいる点が評価できます。 ②デマンド監視システム導入や設備運転の工夫により、使用電力量削減の成果をあげている点も素晴らしいです。	
上下水道部総務課	①個別事業では、目標に対する具体的な取組を実施し、計画目標を達成している点が評価できます。 ②目標が達成できなかった取組項目についても原因を特定できているので、次年度以降の取組に活かしてください。	エコオフィスの取組について、すぐに取り組めるような基本的な事柄から実施できるようにしてください。
水道工務課	機器類の電源管理をこまめに実施している点が評価できます。	目標設定時には、可能な限り、定量的に進捗が把握できる数値目標の設定が望まれます。
壱分小学校	電気、水、紙の削減について、目標値を明確にし、前年比で、電気代18%減、水道使用量12.5%減、紙使用量3%減と、目標を上回る結果を達成され、評価できます。	残業時間削減を目指し、エネルギー使用量の削減につなげてください。
あすか野小学校	ゴーヤによるみどりのカーテンを実施し、職員室に差し込む日光を遮るなど、効果的な活用が確認できます。	
真弓小学校	校内3ヶ所でゴーヤを栽培し、グリーンカーテンの取組に注力している点が評価できます。	グリーンフラッグ取得を目指した取組も検討しながら、更なる活動を期待しています。
生駒小学校	ゴミ箱の色を変え、分別をしやすく工夫した点が評価できます。	コピー代、電気使用量共に、増加している要因をしっかりと分析した上で、次回の取組目標を設定してください。
生駒台小学校	環境掲示板でのごみの量対決や電気使用量のグラフ化など、環境の取組を児童全体に広げる工夫をしている点が評価できます。グリーンフラッグの継続取得に励んでください。	目標設定時には、可能な限り、定量的に進捗が把握できる数値目標の設定が望まれます。
生駒東小学校	省エネ、節水、紙・廃棄物削減、生物多様性保全、環境教育の実施など、全校あげて積極的な取組を展開され、目標レベルや進捗状況の評価も定量的に把握している点が素晴らしいです。	
生駒南小学校	環境エコ委員会を中心に、ごみの分別・資源化・減量や雨水利用、グリーンカーテンなど環境配慮に積極的に取り組んでいる点が評価できます。	
俵口小学校	生活向上委員会が中心となってエコ活動・啓発に取り組んでいる点が評価できます。	目標設定時には、可能な限り、定量的に進捗が把握できる数値目標を意識して計画を立ててください。
光明中学校	節電、節水、紙・廃棄物削減、エコキャップ回収など積極的な取組を展開され、目標レベルや進捗状況の評価を定量的に把握している点が評価できます。	コピー用紙購入量について、増加原因が一時的なものなのかを含め、目標レベルが妥当なのか検証した上で次回につなげてください。
鹿ノ台中学校	グリーンフラッグ取得後、地域への啓発活動として、文化祭に代えてエコフェスタを開催された点が評価できます。エコ優良校として、地域社会への更なる働きかけと連携を期待しています。	プラスチックごみの分別判断が難しい点については、ごみガイドブックを参照されることを推奨します。
上中学校	①地域ぐるみで通学路のクリーンキャンペーンを実施していることや、整備委員会を設置して生徒の自主的な環境配慮活動を推進していることなど、本来業務の中に環境活動が定着しています。 ②エコキャップの回収に高い意識をもって取り組み、前年比60%増の結果を残しているのは素晴らしいです。	①目標設定時には、可能な限り、各項目に取組の効果がわかる数値目標の設定が望まれます。 ②グリーンフラッグ取得を目指した取組も検討しながら、更なる活動を期待しています。

所属名	評価できる点	改善を要する点
生駒中学校	登校時のクリーンアップ作戦は大変面白い取組で評価できます。	エネルギー・紙・水の使用量、紙・ゴミの削減量等、可能な限り数値目標を明確にしてください。
生駒南中学校	①紙の使用量について、目標よりも高い水準で削減を達成できた点が評価できます。 ②生徒会が中心となってクリーンキャンペーンを行ったことが評価できます。	
大瀬中学校	①省エネ、紙・廃棄物削減など目標レベルも定量的に設定され積極的な取組を展開されています。 ②全生徒の環境啓発を促すクリーンキャンペーンや花植えに取り組んでいる点が評価できます。	①エコキャップの実績は重さで把握することも検討した上で次回の目標を設定してください。 ②紙使用量について、増加原因が一時的なものなのかを含め、目標レベルが妥当なのか検証した上で次回につなげてください。
緑ヶ丘中学校	環境教育に力を入れ、生徒会活動、委員会活動として生徒の自発的な行動に繋がるよう指導されている点が評価できます。	環境関連の生徒会活動の成果を全校生徒が理解し、生徒の更なる意欲向上につながる工夫を期待しています。
こども課	省エネルギーや紙の資源化について、基本的事項を徹底して実施されています。	省エネ、紙使用抑制、廃棄物抑制の取組について、可能な限り目標設定時には定量的な数値目標の設定が望まれます。
ひがし保育園	水道の使い方を通じての節水、折り紙や廃材利用の工作を通じて物を大切にすることなど、園児にもわかりやすい環境指導を実施している点が評価できます。 また、よりわかりやすくするために、3歳、4歳、5歳ごとに内容をきめ細かく分けて指導している点は素晴らしいです。 遊びを通じエコに繋がる教育を今後も推進してください。	
小平尾保育園	全家庭へのエコカルタの貸し出し、5歳児の当番活動、エコレンジャーの取組は、独自の工夫があり、本来業務の中に環境活動をうまく取り入れています。	紙使用抑制・リサイクルにおける目標設定時には、可能な限り、取組の効果がわかる数値目標の設定が望まれます。
高山幼稚園	雨水利用、みどりのカーテン、エコ体験教室等、職員だけでなく園児や保護者、地域を巻き込んでエコ意識を高める取組を展開している点が評価できます。	省エネや紙使用抑制の取組についても、可能な限り、数値目標を明確にした進捗管理が望まれます。
生駒台幼稚園	省エネ、節水、紙・廃棄物削減、公共交通機関の利用やアイドリングストップ推進など、積極的な取組を展開されている点が評価できます。	廃棄物発生抑制以外の取組も、目標設定時には、可能な限り数値目標を設定し、定量的な進捗管理が望まれます。
俵口幼稚園	環境への取組を保護者に理解してもらうよう働きかけ、保護者と連携したリサイクル活動など、具体的な実績をあげている点が大変評価できます。	
桜ヶ丘幼稚園	エコキャップの回収、環境教室、エコ活動写真展など各種環境施策に取り組みながら、腐葉土の醸成という新しい取組にも挑戦されており、評価できます。	初めての取組である、醸成した腐葉土の有効活用を期待しています。
生駒幼稚園	週末に電気機器の電源を抜き待機電力の節電を行う等、省エネ、紙使用抑制、ごみ発生抑制、みどりのカーテン作りにも取り組み、優良です。	省エネや紙使用抑制の取組についても、可能な限り数値目標を明確にした進捗管理が望まれます。
たけまるホール	調理室等利用者のごみ持ち帰り実施率100%達成など、集客施設として工夫しながら啓発を実施できています。	
鹿ノ台ふれあいホール	事務用品について、エコマーク等認定商品を購入し、グリーン購入に取組まれている点が評価できます。	利用者に対する、さらなる環境配慮意識を向上するための啓発を期待しています。
芸術会館	駐車場が狭い状況の中、車の乗り合わせ要請など、良く工夫されています。	電力削減と紙使用抑制における目標設定時には、可能な限り、取組の効果がわかる数値目標の設定が望まれます。
南コミュニティセンター	公共施設利用者に対する環境配慮の要請を実施し、その状況を確認徹底出来ている点が評価できます。	可能な限り目標を数値化し、進捗を来場者に見える化することで、さらなる啓発を期待します。
北コミュニティセンター	①図書館で不要となった梱包材を、もったいない食器市で再利用している点が評価できます。 ②施設利用者に公共交通機関利用の啓発を実施するなど、集客施設として努力されています。	
図書会館	多くの市民が利用する館内で、職員が空調の設定温度の工夫や廃油・カートリッジ回収に取組み、来館時の公共交通利用呼びかけ等、有益な環境啓発を実施し、省エネ、省資源活動を推進しています。	目標設定時には、可能な限り数値目標を設定し、定量的な進捗管理が望まれます。
生駒駅前図書室	独自施策として、古本祭りを開催し、本のリユースを推進している点が評価できます。	

所属名	評価できる点	改善を要する点
スポーツ振興課	エコオフィス取組項目数が10項目以上あり、積極的に環境配慮行動に取組んでいる姿勢が窺えます	①紙使用量が増加した要因を分析した上で、適切な目標設定をおこなってください。 ②他の項目についても、紙使用削減率のように、可能な限り、取組の効果がわかる数値目標の設定が望まれます。
小平尾南スポーツ施設	省エネの取組に加え、菜の花を育てる等、独自の施策を実施している点が評価できます。	
滝寺公園スポーツ施設	エコオフィスの取組に加え、独自施策としてエコキャップの回収運動を新しく始めた点が評価できます。	
イモ山スポーツ施設	溝に流れたグラウンドの砂を再利用するなど、独自の工夫が窺えます。	エコキャップの回収については、可能な限り数値目標を設定し、定量的な進捗管理が望まれます。
総合公園スポーツ施設	独自施策として、家庭菜園をしている市民に対する落ち葉(肥料)の配布は、とても良い取組です。	
北大和スポーツ施設	トイレの節水について、独自の工夫を実施している点が評価できます。	
むかいやま公園スポーツ施設	①4つの環境ビジョンをパソコン初期画面に表示し、操作時常に目にすることで意識づけを行い、積極的な行動につなげる努力をしている点が評価できます。 ②独自施策として実施しているテニスボールの南こども園での再利用も新しい取組で素晴らしいです。	可能な限り、エネルギー使用量の数値目標を明確にした上での進捗管理が望まれます。
井出山公園スポーツ施設	施設周辺のゴミ拾いを、スタッフで年6回実施している点が評価できます。	
HOS生駒北スポーツセンター	節電、紙・廃棄物削減、公共交通機関の利用促進、アイドリングストップ推進、落ち葉の腐葉土づくりなど問題意識が高く、多くのテーマを取り上げて環境活動を推進しています。	意識付け、意識共有ができたことで実施率100%とされていますが、第三者が見て達成状況がわかるような定量的または具体的な内容での状況把握も工夫してください。
消防本部 総務課	公用車の利用を係内で調整し、走行数を削減している点が評価できます。	公用車の利用はまず消防部全体で総合的に判断・調整し、その後係での効率的・機動的な運用が望まれます。
消防本部 予防課	省エネ、節水、紙使用量抑制等こまめに取り組み、課題と改善方法をまとめ、次年度の取組みを目指している点が評価できます。	目標設定時には、可能な限り、各項目に取組の効果がわかる数値目標の設定が望まれます。
消防本部 警防課	独自施策として、毎週水曜日に、課員及び署員において庁舎周り及び歩道等の環境美化に努めている点が評価できます。	目標設定時には、可能な限り、進捗状況が把握できる数値目標の設定が望まれます。
消防署 本署	毎週水曜日に、庁舎周辺の美化活動を実施している点が評価できます。	
消防署 南分署	節電、節水、紙削減及び庁舎回りの清掃などに取り組み、日を決めて確認することで環境活動を職員に徹底されています。	
消防署 北分署	庁内放送による昼休み消灯のお知らせや、コピー機使用後のリセットボタンの周知等、所属職員に対する啓発を効果的に実施されている点が評価できます。	

添付 3. 生駒市環境基本計画で掲げられている指標と目標（計画から抜粋）²

指標 1 二酸化炭素排出量 基準年 平成 18 年度 目標年 平成 30 年度

目標 全市域での二酸化炭素排出量（28.7 万 t-CO₂）を 14%削減し、24.7 万 t-CO₂にする。

指標 2 ごみ排出量 基準年 平成 19 年度 目標年 平成 30 年度

目標 家庭系ごみ排出量 1 人 1 日あたり排出量（673.2g）を 15%削減し、570.0g にする。
再資源化率 16.8%を 30.0%に向上させる。
事業系ごみ排出量 9,128t を 6,721t に削減する。

指標 3 公共交通 基準年 平成 19 年度 目標年 平成 30 年度

目標 鉄道利用者（19,210 千人）を、現状維持から 0.5%増にする。
路線バス利用者（5,078 千人）を、10%増（生駒駅、東生駒駅発着路線のみ）にする。
コミュニティバスなどの代替交通の新規路線を複数ルート実現する。

指標 4 河川水質 基準年 平成 19 年度 目標年 平成 30 年度

目標 竜田川の水質を、観測 4 地点の年間平均で BOD（生物化学的酸素要求量）5 mg/L 以下とする。

指標 5 参加人数 平成 21 年度以降の累計 目標年 平成 30 年度

目標 生駒市や生駒市環境基本計画推進会議が開催する講座・行事への参加者が、平成 21 年度から 10 年間の延べ人数で、生駒市の総人口である 11.7 万人（平成 19 年 10 月現在）とする。

² 計画の全文は、市ホームページを参照のこと。

生駒市環境基本計画 5 年目見直し版のページ <http://www.city.ikoma.lg.jp/0000000030.html>

添付 4. 生駒市エネルギービジョンで掲げられている目標と主な取組スケジュール（ビジョンから抜粋）³

■目標

(1) 行動目標（平成 42（2030）年度の都市イメージ）

『エネルギーを賢く利用し、安心・安全で持続的に成長できる都市』

・行政の目標

省エネルギーの促進及び再生可能エネルギーの普及を目指すとともに、エネルギーセキュリティを確保します。

・事業者の目標

CO₂排出量に応じた省エネ・創エネに努め、市や市民が取り組む活動に参加・協力します。

・市民の目標

「環境 No.1 都市」にふさわしいライフスタイルに転換し、住宅のエコ化や省エネ製品の選択に努めます。

(2) 数値目標

①平成 42（2030）年度（中長期）

省エネ行動（ライフスタイルの転換）及び建築物の効率化等により、市域のエネルギー消費量削減割合を平成 18 年の 20%以上とします。

また、市域の再生可能エネルギーの導入割合を平成 23 年度の 6 倍以上とするため、太陽光発電の普及率を平成 23 年度の 4.8%から平成 42 年度の 30%に引き上げます。

これらの省エネルギー及び創エネルギー施策により、平成 42 年度の電力需要見込みに対する太陽光発電による自給率は 15%を目指します。

②平成 30(2018)年度（短期）

省エネ行動（ライフスタイルの転換）及び建築物の効率化等により、市域のエネルギー消費量削減割合を平成 18 年の 5%以上とします。

再生可能エネルギーの導入目標について、賦存量の検討から計画期間内に導入が見込まれる太陽光発電について、平成 30 年度の目標数値を設定します。

平成 42 年度の目標値を元に、平成 30 年度における太陽光発電の目標普及率を 16.5%とし、設備容量の目標値を 13,791kW と設定します。これは平成 23 年度の 2.9 倍に相当します。

短期と中長期の数値目標

	短期 (平成 30 年度)	中長期 (平成 42 年度)
市域のエネルギー消費量削減割合(平成 18 年度比)	5%	20%
再生可能エネルギー導入割合(平成 23 年度比)	2.9 倍	6 倍
電力需要見込みに対する太陽光発電による自給率	-	15%

³ ビジョンの全文は市ホームページを参照のこと。

生駒市エネルギービジョンのページ <http://www.city.ikoma.lg.jp/0000000591.html>

■ 目標達成に向けた主な取組スケジュール

・ 省エネ対策

項目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
① 省エネルギー対策の更なる推進					
1) 低炭素型ライフスタイルの提案		節電対策の継続			
	HEMS 導入支援策の検討	支援策の導入	HEMS の運用		
2) 民間事業者の省エネルギーの推進	省エネ支援策の検討	省エネ支援策の順次導入			
		省エネ対策の周知・啓発			
		エネルギー削減インセンティブの検討	モデル事業の実施		
3) エネルギーマネジメントシステム (EMS) の導入検討	導入支援制度の検討	支援制度の順次導入			
		公共施設調査	導入計画策定	順次導入	
			地域 EMS の導入検討		
② コージェネレーション等の普及促進					
1) 家庭用燃料電池 (エネファーム) 等の導入推進		助成の継続 省エネ技術の調査・研究			
2) 公共施設向けコージェネレーションの導入		市立病院への導入		運用	
	施設調査	導入先選定		順次導入	
3) 民間事業所向けコージェネレーションの導入支援		調査	支援策検討	支援策の導入	

項目	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
③ 建築物のエネルギー性能向上					
1) エネルギー効率の高い住宅への転換		省エネ改修補助の実施			
	中古住宅 リノベーション 体制の調査		支援策の導入		
④ 低炭素まちづくりの推進					
1) スマートコミュニティの誘致		スマートコミュニティ推進奨励金の交付			
2) 集合住宅のスマート化の検討	調査 検討		支援策の導入		
3) 低炭素推進区域の設定 検討		調査	モデル区域の検討		導入
⑤ エネルギー効率の高い交通手段の促進					
1) 生駒市に適したクリーンエネルギー自動車の導入 検討	公用車 に導入	公共車両への導入検討			
				クリーンエネルギーステーション の導入検討	
		超小型電気自動車 等の調査		モデル導入	
2) コミュニティバスの運 行路線拡大	運行路線 の拡大		運行の継続・検証		
⑥ 環境教育・啓発の推進					
1) 教育施設における再生 可能エネルギー・省エネ設 備の導入		調査		順次導入	
2) 環境・エネルギー学習 プログラムの検討			調査・検討	モデル実施	

・創エネ対策

項目	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
① 太陽エネルギー					
1) 産業用太陽光発電システムの導入推進		現地調査など導入支援			
2) 家庭用太陽光発電システムの導入推進		導入の促進・支援			
3) 集合住宅用太陽光発電システムの導入推進		導入の促進・支援			
4) 公共施設及び自治会集会所への太陽光発電システムの導入推進	調査	公共施設等への順次導入			
		自治会集会所への補助			
	市民共同発電所の開設	取組の普及拡大、他都市との連携			
5) 遊休地を活用した太陽光発電システムの活用検討		調査・活用方法検討・提案			
6) 太陽熱利用システムの普及検討		現況調査		導入可能性検討	
7) ソーラーオブリゲーション導入の検討			調査		導入可能性検討
② バイオマス					
1) バイオマスを活用した発電・熱利用等の検討	バイオマス活用施設のあり方の検討		活用計画の策定		エネルギー活用のモデル実施
		各地域での取組調査・検討		モデル地区での導入	
2) ボイラー更新時におけるバイオマスボイラー情報の提供		調査・情報の提供			
③ 小水力					
上水道施設での小水力発電			継続運用		

・セキュリティ対策

項目	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度
① 公共施設等への再生可能エネルギー導入促進（防災拠点の機能強化）					
1) 防災関連施設への再生可能エネルギー機器の導入	施設調査	市立病院への導入		運用	
		導入先選定		順次導入	
2) 民間事業所向けコージェネレーションの導入支援		調査	支援策検討	支援策の導入	
② 住宅へのエネルギーセキュリティ導入促進					
1) 居住継続性能住宅の開発促進	調査検討		支援策の導入		

生駒市環境モデル都市アクションプラン 概要版① 【全体構想及び取組体制】



生駒市の地域特性・課題・これまでの主な取組

地域特性

- ・大都市隣接の利便性を活かし、低層住宅を中心とした質の高い住宅都市として発展
- ・生駒山系に象徴される豊かな自然に恵まれた居住環境

これまでの主な取組

- 市民協働の取組の推進
- バイオマスの有効利用の推進
- 再生可能エネルギーの導入支援
- 省エネルギー対策の推進

生駒市における課題

1. 急速な高齢化への対応と若い世代の呼び込みを可能とする都市構造のグランドデザイン
 2. 廃棄物問題への対応 3. 産業の活性化 4. 市民力のさらなる活用 5. 高齢化に伴う各種の課題への対応

▶ 低炭素型のまちづくりと、市民の利便性の向上、産業活性化、防災力の強化などを図り、課題に対応していくことで、住宅都市として一つのモデルとなるまちの実現を目指していく。

現状分析

地域の温室効果ガス排出量

・2008年度まで増加傾向であったが、2009年度以降は減少傾向に転じ、2010年度は基準年度(2006年度)と比較して6.9%減少した。

・部門別みると、家庭部門(41.4%)、業務部門(26.3%)、運輸部門(19.7%)、産業部門(10.4%)、廃棄物部門(2.2%)の順であった。

・住宅都市であることから、家庭と業務の民生部門が全体の大半(67.7%)を占めている。大幅に削減するためには、民生部門への対策を重点的に行う必要がある。

年度	排出実量 (万t-CO2)	削減後排出量 (万t-CO2)	削減量 (万t-CO2)
2006 (H18) (基準年度)	30.5	28.4	2.1
2007 (H19)	30.7	28.4	2.3
2008 (H20)	31.0	28.4	2.6
2009 (H21)	30.7	28.4	2.3
2010 (H22)	28.4	28.4	0.0

計画の位置づけ

・生駒市環境モデル都市アクションプランは、「地球温暖化対策地方公共団体実行計画(区域施策編)」に相当するものとして位置づける。

関連する計画とアクションプランの位置づけ

地域の活力の創出などの効果

環境モデル都市の取組は、温室効果ガスの大幅な削減だけでなく、都市の新たな魅力や活力の創出などを実現するものである。生駒市は国内初の住宅都市における環境モデル都市であり、先導的な取組を行っていくことにより、まちの暮らしやすさやブランドイメージの向上、地域産業の活性化などを図り、社会的効果と経済的効果の好循環を生み出していく。

環境モデル都市の取組	社会的効果	経済的効果
①都市構造の再設計	人口の増加・人口の構成などへの向上	人的交流及び経済の循環
②資源循環・エネルギー自給システムの構築	住居へのサービス、まちの暮らしやすさの維持・向上	来訪者(転入、観光、観光など)
③ICTを活用したコミュニティサービスの推進	取組への市民、事業者の参加	地域外への販売(農産物など)
④食のバリューチェーン構築		以上による雇用創出、経済波及効果
⑤コミュニティ交通システムの再構築		

環境モデル都市の取組による社会的効果と経済的効果

取組体制・フォローアップ

・環境モデル都市の推進という観点から、「生駒市環境モデル都市推進本部」、「生駒市環境モデル都市推進協議会」を設立する。

・「生駒市環境モデル都市推進協議会」は、市民、学識経験者、民間企業などの保有する知見・ノウハウを活用し、取組の進捗状況、温室効果ガス削減量、地域活力の創出などの評価指標の目標値と実績の差異分析を含めた継続的なPDCAサイクルを構築する。

・取組が多岐にわたることから、取組の5つの柱に沿ってテーマ別のワーキンググループ(WG)などを設け、個別施策を推進していく。

・政策を横断的に展開するため、温暖化防止対策を総合的に担う「環境モデル都市推進課」を新設し、事務局として各取組の所管課のフォローアップ活動をマネジメントする。

フォローアップの体制

削減目標など

将来像

～市民・事業者・行政の“協創”で築く低炭素“循環”型住宅都市～

＜将来像に向けて構築する5つのモデル＞

1. 世代循環モデル
2. 低炭素資源循環モデル
3. 環境・エネルギーと農業での循環モデル
4. 市民・事業者・行政等の協創モデル
5. 低炭素事業と新たなコミュニティサービスとの循環モデル

削減目標

◆CO₂の削減目標

中期目標 2030年度
35%(約10.6万t-CO₂)削減

長期目標 2050年度
70%(約21.3万t-CO₂)削減

※基準年度(2006年度)比

温室効果ガス中・長期削減目標のイメージ

生駒市に特徴的な3種のゾーン

- 環境先進ゾーン**: 資源循環の拠点となる「エネルギー&バイオセンター」において都市廃棄物を利用し、発生させる電気・熱・CO₂の活用方法を多様化させることで大幅なCO₂削減につなげる
- 住宅ゾーン**: 昭和30年代から計画的に住宅地開発が行われてきたため、住宅エリアごとに構成世代が異なり、高齢エリアでは今後、空家が増加する可能性がある
- コンパクトシティゾーン**: 生駒市において想定される超少子高齢社会に対応するため生駒駅・東生駒駅等主要駅周辺エリアが行政・経済の要となる

削減目標の達成についての考え方(中長期取組方針)

生駒市が抱える課題に対応するため、“循環”と“協創”をキーワードとした5つの柱に基づく取組を推進し、今後も増加が予想される民生部門を中心とした温室効果ガス排出削減を実現する。取組を推進していくにあたっては、高い環境意識をもつ市民の力を基盤としていく。

1. 「都市構造の再設計」
 - 住宅・事業所を社会共有のストックとして捉え、高効率のストックを集中して整備するとともに、いかにしてより効率の高い住居・事務所に移ってもらうようにすることが重要である。
2. 「資源循環・エネルギー自給システムの構築」
 - 地域の住宅及び事業所などにおける分散エネルギー源(太陽光発電システム、燃料電池、コージェネレーション、バイオガス発電)の導入・利用を促進し、災害時にも対応できるまちづくりを目指す。
 - また、地域に導入される分散型エネルギー源を面的に有効活用していくために、地域のエネルギー供給を管理する新電力・地域エネルギー会社の設立を検討する。
3. 「ICTを活用したコミュニティサービスの推進」
 - エネルギー利用の最適化を目的に構築される情報通信ネットワークについて、交通、医療、教育など他のコミュニティサービスにおいて活用していくことにより、高齢者、若年層、子育て世代、熟年層といった世代ごとのニーズに沿ったコミュニティサービスの多様化、コミュニティの形成を目指す。
4. 「食のバリューチェーン構築」
 - ICTを活用した農業の6次産業化による食のバリューチェーンを構築することにより、継続的な地産地消サイクルの確立を目指す。また、環境に配慮した安全・安心な野菜などの栽培を、教育や生きがいづくりといった地域づくりに活用していくとともに、これらの活動を通して「生駒ブランド」を確立し、地域外へ販路を拡大することにより地域経済の活性化に貢献することを目指す。
5. 「コミュニティ交通システムの再構築」
 - コミュニティ交通のサービス地域や内容を「都市構造の再設計」と連動させ、住みやすさの維持向上に繋げて行く。また、コミュニティ交通のサービス主体や内容を「ICTを活用したコミュニティサービスの推進」と連動させ、持続的なサービスの実施主体や基盤の確保に繋げて行く。

市民力

取組の5つの柱とそれを支える市民力

⁴ 全文については、市ホームページを参照のこと。 環境モデル都市のページ <http://www.city.ikoma.lg.jp/0000001440.html>